

# 今後の行政事業レビューの実施について

## 改善の考え方

- 行政事業レビューは、行政の無駄削減はもとより、次の2点も目的とすることを明確化。
  - ① 事業の効果的、効率的な実施を通じた質の高い行政の実現
  - ② 国の行政の透明性、説明責任の確保
- 外部性・公開性・透明性というレビューの特性を、より効果的・効率的に発揮させるため、実施方法等を改善。

## 改善の方向性のポイント

### 外部性

#### <外部チェック体制の明確化>

- 各府省における取組体制を見直し、各府省としてのチェックと外部有識者のチェックを明確に区分し、それぞれのチェック結果をレビューシートに明記。

#### <外部チェック対象の重点化>

- メリハリのあるチェックを行うため、外部有識者のチェック対象を重点化。

	シートの対象作成		外部有識者の点検対象		公開プロセス対象
これまで	約5,000事業	➡	約5,000事業全て	➡	91事業(昨年の例)
見直し後	約5,000事業	➡	約500事業(※)	➡	50~80事業程度

- ① 前年度に新規に開始した事業
- ② 事業の終了年度等に当たり継続の是非を判断する必要のある事業
- (※)この他に、期限の無い事業等について、5年に1回点検を実施。

### 公開性 <熟議型による公開議論の実施>

- 外部有識者による公開の場での事業の点検(公開プロセス)は、熟議型の議論により事業の改善策を共に考える場であることを明確化。

### 透明性 <レビューシートによる透明性の確保>

- 国の全ての事業(約5,000事業)に関するレビューシートの公表は継続。今まで資金の流れが見えにくかった基金や交付金について記載を充実することで、今まで以上に透明性を向上。

### 政策評価との連携等

- 各府省はレビューによるチェック結果を、概算要求に的確に反映。
- 各府省の点検結果を、行政改革推進会議がチェック。必要に応じて、チェック結果が予算編成過程で活用されるよう意見を提出。各府省の良い取組についても積極的に評価を行い、ベストプラクティスとして実施方法の改善に活用。
- 政策評価とレビューの連携強化を進め、情報の相互活用や一覧性のある形での公表を実施